

要 請 書

平成27年10月28日

厚木基地騒音対策協議会

厚木基地騒音対策協議会

会員

神奈川県知事	黒岩祐治(会長)
横浜市長	林文子
相模原市長	加山俊夫
藤沢市長	鈴木恒夫
茅ヶ崎市長	服部信明
大和市長	大木哲
海老名市長	内野優
座間市長	遠藤三紀夫
綾瀬市長	笠間城治郎
町田市長	石阪丈一

神奈川県議会議長	土井りゅうすけ
神奈川県議会議員	藤代ゆうや
神奈川県議会議員	京島けいこ
神奈川県議会議員	谷口かずふみ
神奈川県議会議員	菅原直敏
神奈川県議会議員	藤井克彦
神奈川県議会議員	楠梨恵子
横浜市会議長	梶村充
相模原市議会議長	阿部善博
藤沢市議会議長	佐藤春雄
茅ヶ崎市議会議長	青木浩
大和市議会議長	菊地弘
海老名市議会議長	藤澤菊枝
座間市議会議長	伊田雅彦
綾瀬市議会議長	青柳慎
町田市議会議長	上野孝典

顧問

衆議院議員

衆議院議員

衆議院議員

衆議院議員

衆議院議員

衆議院議員

衆議院議員

衆議院議員

参議院議員

参議院議員

参議院議員

参議院議員

参議院議員

参議院議員

星野剛士

甘利明

あかま二郎

河野太郎

後藤祐一

阿部知子

本村賢太郎

義家弘介

中西健治

金子洋一

島村大

松沢成文

佐々木さやか

牧山ひろえ

平成 27 年 10 月 28 日

殿

厚木基地騒音対策協議会

会長（神奈川県知事）

黒 岩 祐 治

厚木基地における米空母艦載機の夜間連続離着陸訓練による航空機
騒音の解消等に関する要請

厚木基地周辺住民は、航空機騒音により、長年にわたり堪え難い苦痛を強いられており、神奈川県及び基地周辺市は、かねてより、このような航空機騒音問題の抜本的解決を求めてまいりました。

こうした中、平成18年5月には在日米軍再編協議において、騒音被害の主な原因である空母艦載機を2014（平成26）年までに移駐させることや恒常的訓練施設を2009（平成21）年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することを目標とすることが日米両国政府間で合意され、ロードマップ^(注1)が公表されました。

しかしながら、空母艦載機の移駐時期については、平成25年1月に防衛省から施設整備の全体工程を見直した結果、遅延するとの説明があり、同年10月には、日米両国政府間で2017（平成29）年頃までになることが確認されたところです。

また、恒常的訓練施設については、ロードマップでは移駐の前提とはされていないものの、いまだに設置場所が特定されていません。

一方、移駐が実現するまでの間も、基地周辺の住民は、特にNLP^(注2)等の空母艦載機着陸訓練前後の激しい騒音や、墜落、部品落下、不時着等の事故への不安にさらされ続けなくてはなりません。

特に、平成24年5月には、空母艦載機の着陸訓練が3日間行われ、周辺住民は耐え難い苦痛を強いられました。最近でも、一步間違えれば重大な結果につながりかねない米軍機事故が相次ぎ発生し、昨年の夏にはオスプレイが初めて飛来しています。

これまでの、三次にわたる騒音訴訟に引き続き、厚木基地第四次騒音訴訟においても、基地周辺住民が受忍限度を超える騒音被害を受けているとの司法判断がなされていることは、改めてその負担の深刻さを示しています。

ついては、厚木基地騒音対策協議会では、一日も早い騒音問題の抜本的解決を図るため、国の責任において、特に次のことを早急実現するよう要請いたします。

また、文書にてご回答くださいますよう併せてお願いいたします。

注1：ロードマップ… 在日米軍再編協議において平成18年5月1日に合意された内容を記載した文書。正式には「再編実施のための日米のロードマップ」。

注2：NLP…Night Landing Practice の略。

1 早期かつ着実に空母艦載機の移駐等を実施すること

- (1) 貴職におかれては、過大な基地負担を負っている地元住民の強い思いを受け止め、一日も早い移駐の実現のため、施設整備や訓練空域の調整等を着実にを行うとともに、移駐にかかる諸課題の解決に向けた米側との協議等に全力を尽くされるよう求めます。
- (2) 移駐の具体的なスケジュールや現在の進捗状況、移駐後の厚木基地周辺における騒音状況の予測について、「厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会」等を通じ、関係自治体に対し、継続的かつきめ細やかな情報提供を行うよう要請します。

2 恒常的訓練施設を確保すること

2009（平成21）年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することを目標とするとされている恒常的訓練施設については、貴職の責任において、早期に選定し、移駐実現までに必要な施設整備等を終えるよう、また、その見通しについて、速やかに情報を提供するよう要請します。

3 移駐実現までの間も、騒音問題の解決に積極的に取り組むこと

- (1) NLPの硫黄島での全面実施及びNLP直前の集中的訓練の硫黄島の活用等

貴職におかれては、人口密集地域にある厚木基地周辺住民の深刻な騒音被害の状況を深く認識され、NLPの硫黄島での全面実施及びNLP直前の集中的訓練における硫黄島の活用等について、積極的に米側と調整するよう、強く要請します。

その実現に向けて、

ア 本協議会が提案している、いわゆる「直結方式」^(注3)や硫黄島での予備日の設定等、必要な措置についての多角的な検討を行うこと

イ 支援態勢、施設の一層の拡充、整備を推進することを求めます。

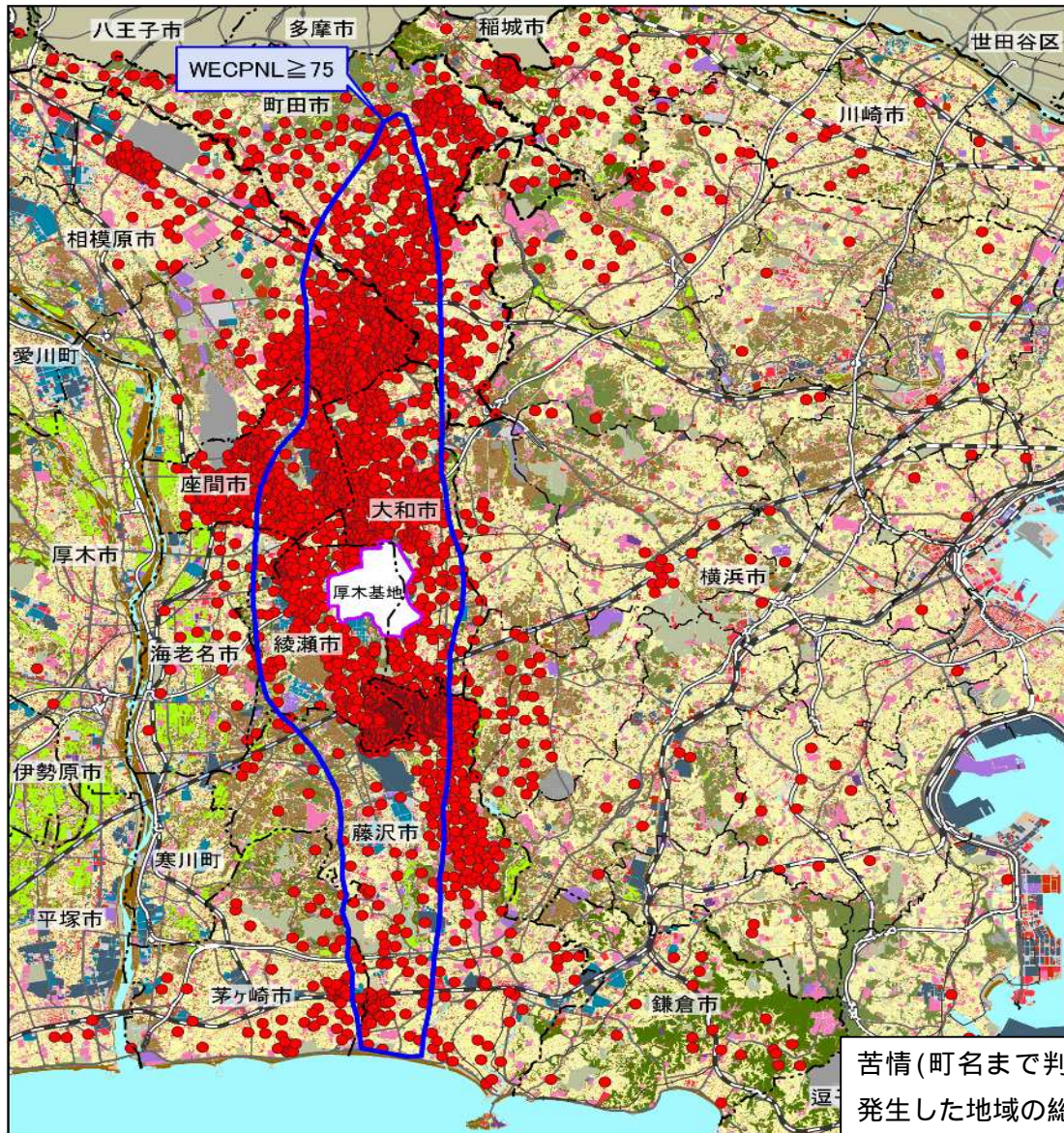
- (2) 激しい騒音の発生が予想される飛行に関する事前情報提供
住民の苦痛を少しでも軽減・緩和するために、NLP等の空母艦載機着陸訓練に限らず、激しい騒音の発生が予想される飛行については、貴職の責任において、適時、的確な情報提供を行うとともに、住民への十分な説明を行うよう要請します。

注3：直結方式・・・空母艦載機の帰還と着艦を空母と硫黄島の間で直接行うとともに、NLPと通常訓練をすべて硫黄島で行う方式。

騒音苦情の発生地点で見る周辺住民への影響

平成 26 年度に、県及び厚木基地周辺 12 市に寄せられた苦情 5,323 件の内、住所地(町名まで)が判明した苦情について、その発生場所を示した。(地図上の赤丸 1 つは、町名まで判明した苦情 1 件を表す。)

青い線は、国が実施した騒音調査に基づく WECPNL75 のコンターライン。

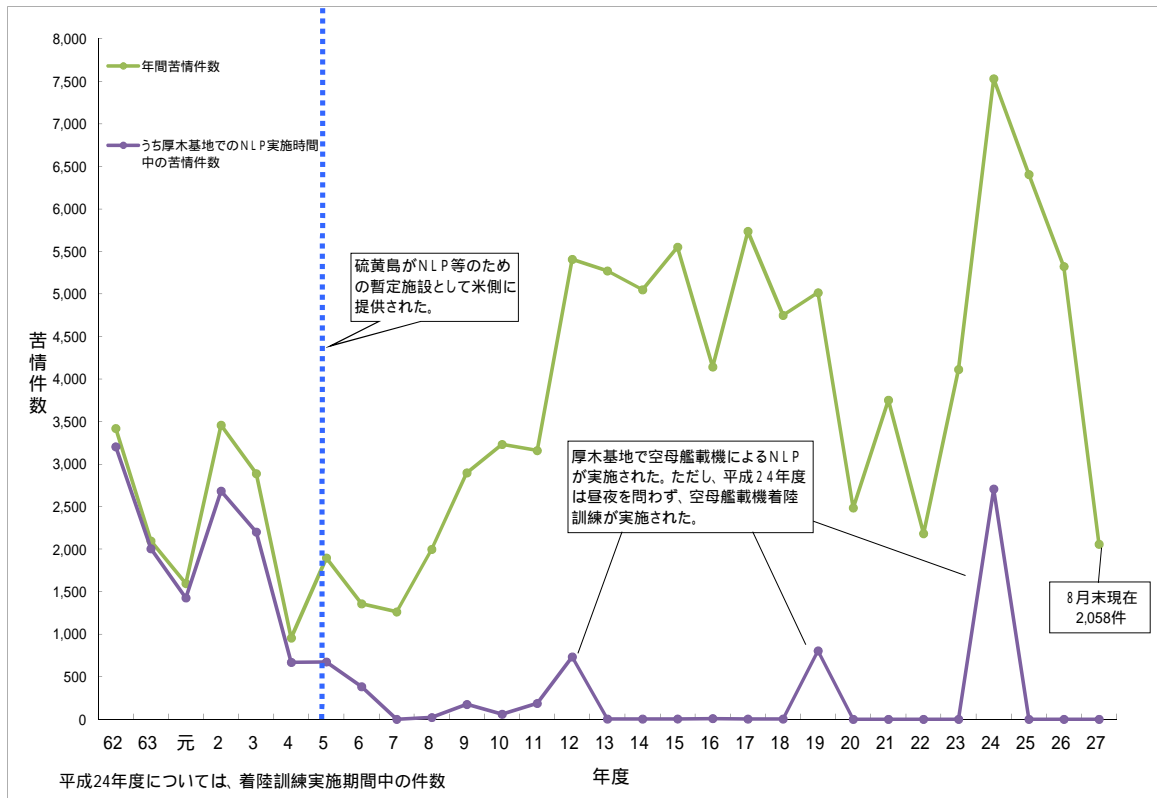


苦情(町名まで判明したもの)が発生した地域の総人口
約 300 万人
(平成 26 年 10 月 1 日現在)

- この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 20 万分の 1 地勢図を複製したものである。(承認番号 平 27 情複、第 361 号)
- 「平成 22 年度神奈川県都市計画基礎調査」及び「平成 24 年度東京都土地利用現況」を用いて作成。苦情発生地域の総人口について、横浜市、川崎市については、平成 26 年 9 月末日現在の統計。地図範囲外の苦情が 8 件ある。

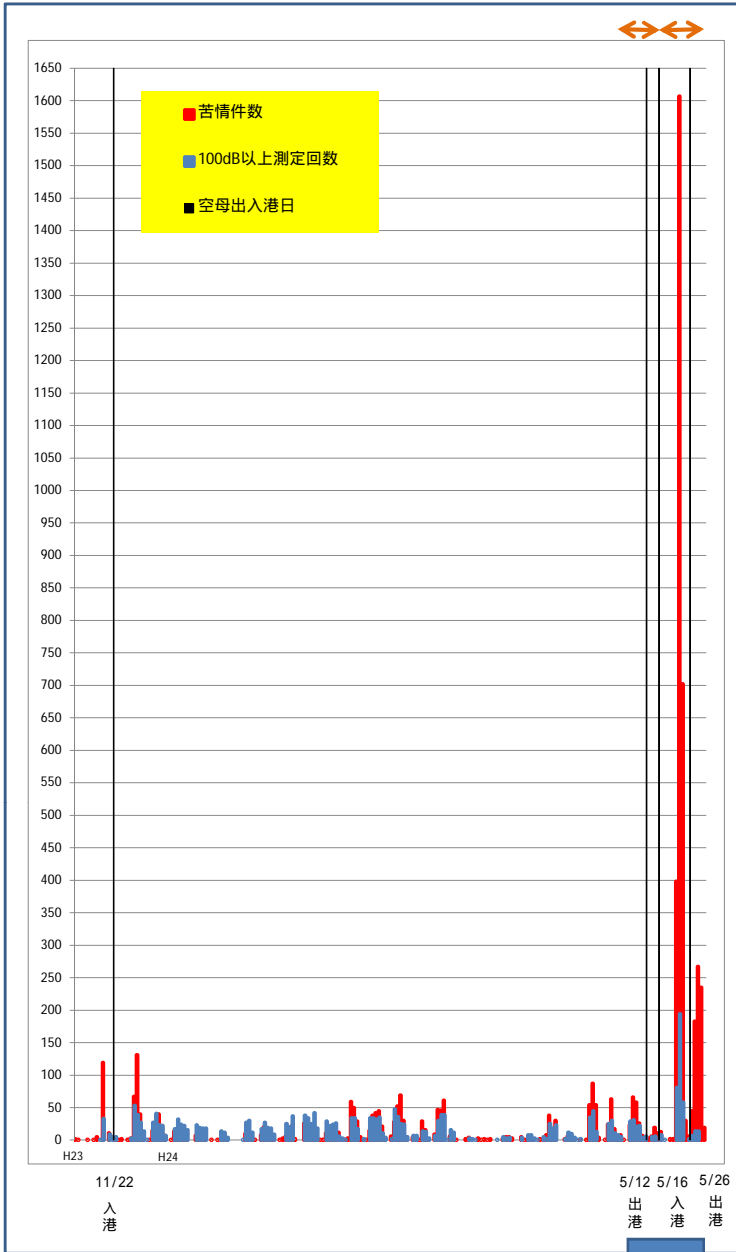
苦情を受けた自治体	大和	綾瀬	相模原	藤沢	茅ヶ崎	海老名	座間	横浜	町田	川崎	鎌倉	平塚	県	合計
苦情件数	417	768	655	464	110	34	423	104	531	59	18	7	578	4,168

(グラフ - 1) 年度別苦情件数及びNLP時間中の苦情件数



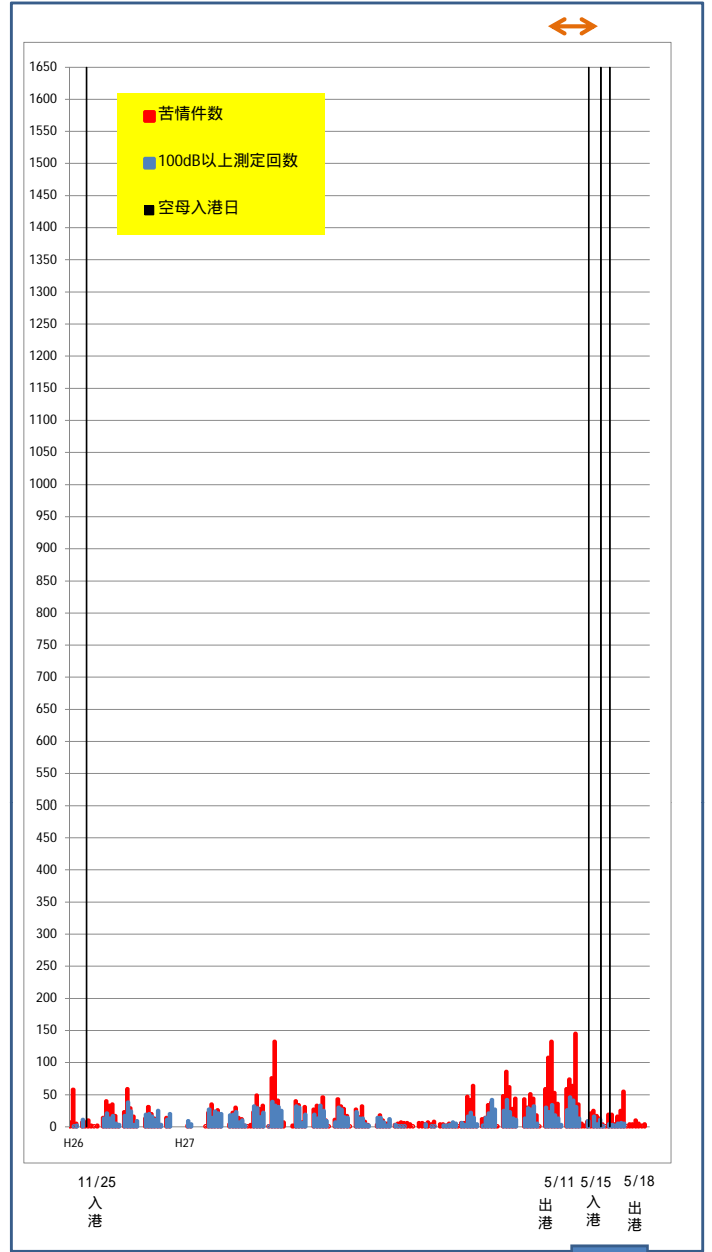
(グラフ-2-1) 平成23年11月～平成24年5月
米空母ジョージ・ワシントン
入港前後の苦情件数

硫黄島訓練 厚木基地訓練



(グラフ-2-2) 平成26年11月～平成27年5月
米空母ジョージ・ワシントン
入港前後の苦情件数

硫黄島訓練

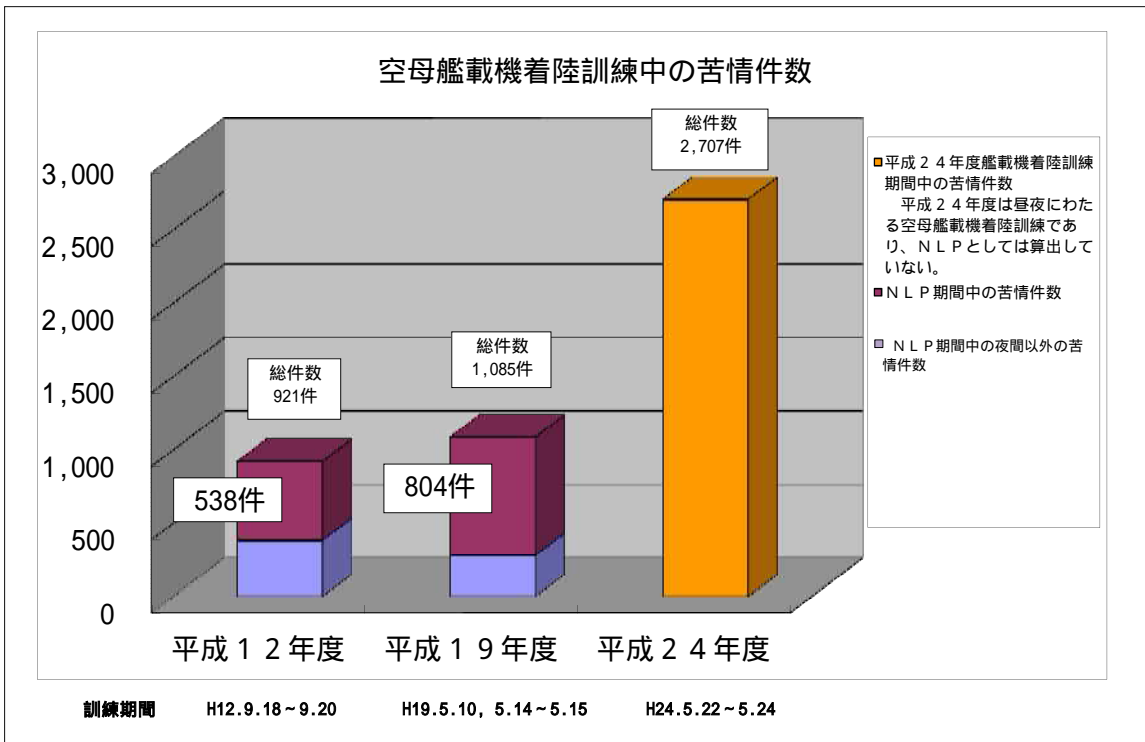


訓練場所	訓練日時	苦情件数
厚木基地	5月22日	398件
	5月23日	1,607件
	5月24日	702件
	計	2,707件
硫黄島	5月9日～17日	145件

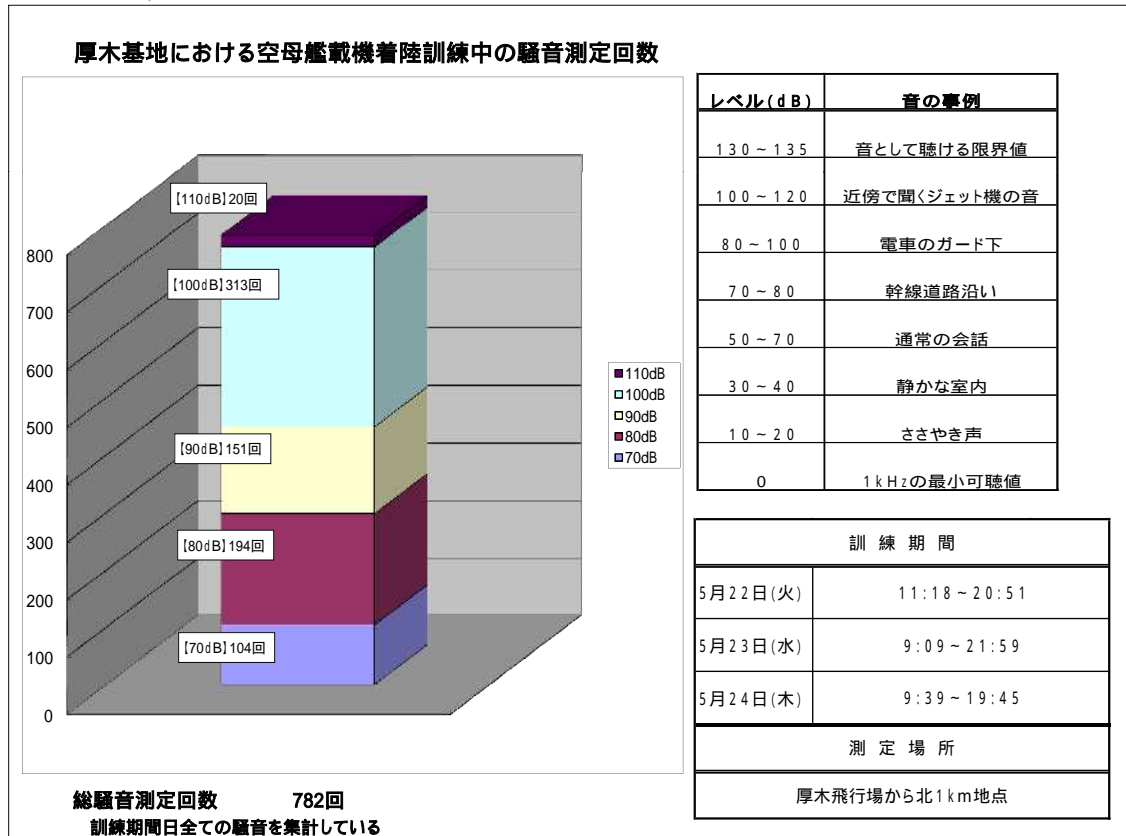
訓練場所	訓練日時	苦情件数
硫黄島	5月6日～14日	322件

平成24年5月22日～24日の間は、空母運用上の都合により、厚木基地において訓練が実施され、苦情件数が2,700件以上に上った。

(グラフ - 3) 厚木基地における空母艦載機着陸訓練中の苦情件数



(グラフ - 4) 平成24年度厚木基地空母艦載機着陸訓練中の騒音測定回数等



厚木基地問題に関する近年の状況

平成 14 年 2 月	日米両政府間で、できる限り多くの N L P を硫黄島において実施することが了解された。
14 年 3 月	厚木基地で N L P が実施された。
14 年 5 月	デモンストレーションフライトが廃止された。
14 年 9 月	E A 6 B プラウラーからエンジンのパネルが落下した。
14 年 10 月	厚木基地で N L P が実施された。
15 年 1 月	厚木基地で N L P が実施された。
15 年 1 ~ 2 月	瀬戸内海最大の無人島に N L P 訓練施設を含む防衛施設の誘致の動きがあったが、白紙撤回となった。
15 年 3 月	S H 6 0 ヘリから部品が落下した。
15 年 5 月	キャンプ座間所属の U H 6 0 ヘリが上智大学グラウンドに不時着した。
15 年 10 月	厚木基地で N L P を実施するとの通告があったが、初めて硫黄島での日程を延長して N L P を実施し、厚木基地では実施されなかった。
15 年 11 ~ 12 月	F A 1 8 F スーパーホーネット戦闘攻撃機 1 3 機が、F 1 4 トムキャットに代えて、配備された。
16 年 2 月	厚木基地で N L P が実施された。
16 年 7 月	厚木基地で N L P が実施された。 第五空母航空団所属のヘリから銃弾 2 0 0 発が落下した。
16 年 8 月	横田基地所属のヘリが、みなとみらい地区ヘリポート付近に不時着した。
16 年 10 月	F A 1 8 E スーパーホーネット戦闘攻撃機 1 3 機が F A 1 8 C ホーネットに代えて、追加配備された。
16 年 11 月	F A 1 8 C ホーネットからミサイルの羽根の一部が落下した。
16 年 12 月	F A 1 8 C ホーネットから部品の一部が脱落し、藤沢市内の工場の屋根に穴を開けた。
17 年 1 月	厚木基地で N L P が実施された。
17 年 2 月	キャンプ座間所属のヘリが伊勢原市の成城学園グラウンドに不時着した。
17 年 4 月	飛行を終えて厚木基地に戻った第五空母航空団所属の艦載機 2 機からハシゴの一部等の部品が紛失しているのがわかった。
17 年 5 月	厚木基地で N L P が実施された。 厚木基地所属のヘリが部品を紛失した。
17 年 7 月	藤沢市片瀬海岸に厚木基地所属のヘリが不時着した。
17 年 10 月	厚木基地で N L P が実施された。 在日米軍再編協議において、空母艦載機の移駐案が合意され、「日米同盟：未来のための変革と再編」(中間報告)が公表された。
18 年 1 月	約 2 0 年ぶりに住宅防音工事区域の見直しが行われた。
18 年 5 月	在日米軍再編協議において、2 0 1 4 (平成 2 6) 年までの空母艦載機の移駐が合意され、「再編実施のための日米のロードマップ」(最終報告)が公表された。 厚木基地で N L P が実施された。

18年 5月	第五空母航空団所属のC 2 プロペラ機が航空機の部品の一部を落下した。 在日米軍再編に関する基本方針が閣議決定された。
18年 7月	厚木基地第三次騒音訴訟の控訴審判決があった。 (W E C P N L 7 5以上の損害賠償請求が認められるなど、原告側の一部勝訴)
18年 10月	厚木基地でN L Pが実施された。 第五空母航空団所属のヘリから懐中電灯が落下した。
19年 2月	F A 1 8 が部品を紛失した。
19年 5月	厚木基地でN L Pが実施された。
19年 6月	横田基地所属のU H 1 Nヘリが横浜市金沢区内の公園に不時着した。
19年 12月	厚木基地第四次騒音訴訟が提起された。
20年 6月	横田基地所属のU H 1 Nヘリが相模川河川敷に不時着した。
21年 2月	綾瀬市上空でF A 1 8 Eスーパーホーネットからゴム製シールが落下した。
22年 1月	F A 1 8 Eスーパーホーネットから金属製部品が落下し、綾瀬市内の民家の一部を破損した。
22年 3月	F A 1 8 Cホーネットから金属製部品が落下した。
23年 2月	寒川町上空で第五空母航空団所属のヘリから金属製ブイが落下した。 平塚市内の相模川河川敷に厚木基地所属のヘリが緊急着陸した。
24年 2月	E A 6 B プラウラーから機体外部パネルが落下した。
24年 3月	E A 6 B プラウラーの後継機として、E A 1 8 G グラウラーが厚木基地に配備された。
24年 5月	厚木基地で、昼夜を問わず空母艦載機による着陸訓練が実施された。
25年 1月	防衛大臣政務官が来県し、地元自治体に対し、空母艦載機の移駐の遅延等について説明を行った。
25年 2月	引き続き、2014(平成26)年までに移駐することを強く求め、併せて国や米側が、自治体へ情報提供等を行うための枠組みを早期に構築するよう、防衛大臣及び外務大臣へ要請を行った。
25年 5月	「厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会」が設立された。
25年 10月	日米両国政府間において、空母艦載機の移駐が、2017(平成29)年頃までに完了することが確認された。
25年 12月	第五空母航空団所属のM H 6 0 Sヘリが三浦市三崎に不時着した。
26年 1月	綾瀬市内で、F A 1 8 Eスーパーホーネットから金属製部品が落下した。
26年 5月	厚木基地第四次騒音訴訟の地裁判決があった。
27年 7月	厚木基地第四次騒音訴訟の高裁判決があった。

住民から寄せられた騒音被害に関する意見

平成26～27年に県及び各市へ寄せられた意見の中から一部について掲載します。

航空機の飛行や騒音について

飛行内容に関する意見

深夜まで3分おきに米軍機が低空で飛行するせいで眠れない。毎回同じルートではなく飛行ルートを変えてほしい。最近上空で旋回しているのではないかと思うほど騒音がひどい。

夜10時以降の飛行はルール違反だ。ルート外を航空機がバリバリ振動音をさせて屋根すれすれを飛んでいる。

パイロットの顔が見えるくらいの低空で飛んでいる。家のすぐ上空を戦闘機が通過している。こんな異常な状態で平和な国と言えるのか。

1日中頻繁に飛行している。戦争が起きてしまうのではないかと不安になる。

FA18戦闘機が17機も編隊飛行をしながら家の上空を低空飛行するので騒音が激しい。耳鳴りがすごい。

手が届きそうなところを米軍機が飛行していて怖い。航空ショーを見ているかのような迫力がある。

本日も昼前から米軍の戦闘機がうるさくてうんざりする。いい加減にしてほしい。気が休まる時間が全然ない。早急に対応してほしい。

今年に入ってから騒音がひどくなったように感じる。飛行経路が変わったのか。近頃は低空飛行なので不快に感じる。

生活被害に関する意見

米軍機の音を怖がって子供が外で遊べない。また、自宅上空を飛行するたびに子供が目覚ましてしまう。

平日散々我慢しているので土日くらい静かにしてほしい。休みが台無しになる。祝日にも飛行している。日本の休日なのだから日本のしきたりに従ってほしい。

昨年引っ越してきたが、こんなに騒音がひどいとは思わなかった。正直もう住みたくない。夜勤なので日中眠れないと生活に支障をきたしてしまう。

振動で家が揺れる。今までにないほどのひどい爆音がした。一体いつまでつづくのか。

米軍のジェット機が連続飛行すると地響きがして、テレビや電話、会話が一切聞こえなくなる。大変苦痛だ。

絶え間なく発生する騒音でおかしくなりそう。一度でいいから体験してほしい、厚木基地周辺住民がどれだけの環境で生活しているのかを。

自分はこの状況に耐えられず引っ越すことにしたが、多くの方々が苦しんでいる。何か対策を打ってほしい。

戦闘機が飛行すると生活全般の音という音がかき消される。目の前の人の声ですら聞こえなくなる。最悪な環境だ。早急に環境改善をしてもらいたい。

もう夜の9時過ぎになるのにまだ航空機が飛来している。子供たちは明日も学校があるのだ。

健康被害に関する意見

午前6時から飛行しており睡眠妨害だ。昨晩は夜9時を過ぎても飛行していて精神的にかなりの苦痛を感じる。

仕事で疲れているところに深夜の騒音で起こされる。血圧が上がり体調を崩している。

現在妊娠中だが、ストレスが溜まってお腹の子にも影響が出るのではと心配だ。新生児の耳にも悪影響だと思う。

連日航空機が低空で何回も飛行し、頭痛や耳鳴りがひどい。

音に敏感になりすぎて睡眠障害となり、睡眠薬がないとぐっすり眠ることができない。過度のストレスで精神安定剤を飲んでいる。

情報提供に関する意見

いくら基地があることを承知していてもこの騒音は迷惑である。せめて訓練時間を公表するなどの配慮が共存する上で必要ではないかと思う。

米軍機が通過する情報を防災無線で知らせるなどの対応はできないのか。

発着訓練する機種、騒音、高度、経路を全て公開するべきである。

航空機の騒音が発生する区域であることをもっと周知すべきである。

国の住宅防音工事に関する意見

深夜に米軍機の騒音がうるさい。住宅防音工事の対象区域になっていないのにうるさいのはおかしい。

住宅防音工事対象区域を毎年見直してほしい。自治体にはこのことを国へ強く要請してほしい。

飛行経路が変わっているなら、住宅防音工事の対象区域もそれに併せて変えていくべきである。防音対策は重大な問題だ。